授業デザイン　FIRST STEP Vol.1　―「授業は英語で行う」編―

1　授業を英語で行うのは何のため？

授業を英語で行うねらいとして，中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編には，以下の2点が記載されています。

○　生徒が授業の中で「英語に触れる機会」を最大限に確保すること。

○　授業全体を、英語を使った「実際のコミュニケーションの場面」とすること。

2　「授業は英語で行う」際の留意点

「授業は英語で行う」とは，ただ英語を使って授業を行えばよいということではありません。以下の3点に留意して授業を行いましょう。

（1）　生徒が授業の中で「英語に触れる機会」を最大限に確保する。

- 英語による言語活動を授業の中心に据えましょう。
- 生徒に英語使用を促し，英語でのやり取りを豊富に行うために，教師は積極的に英語を使用しましょう。

（2）　授業全体を英語を使った「実際のコミュニケーションの場面」とする。

- 互いの考えや気持ちを伝え合うなどのコミュニケーションが中心の言語活動を行いましょう。
- 日本語での文法説明や本文の和訳などを中心とした授業から，教師と生徒，生徒同士の間で英語による豊かなコミュニケーションが行われる授業に転換しましょう。

（3）　生徒の理解の程度に応じた英語を用いる。

- 生徒の理解の程度を確認しながら，できるだけ理解が可能な英語を使用しましょう。
- 使用した表現が難しいと判断した場合は，より平易な表現で言い直したり具体的な例を提示したりするなどして，生徒に内容を推測させましょう。

3　授業における英語の使用場面と英語使用の工夫

授業において英語の使用場面はたくさんあります。また，英語を使う際は，生徒の理解の程度に応じた使用を心掛けることが大切です。授業における英語の使用場面と英語使用の工夫の例を，それぞれ以下に示します。

（1）　英語の使用場面（例）

- 授業開始や終了時に挨拶を行う。
- 生徒に指示を出す。
- 本時の流れや言語活動の手順を説明したり，課題を提示したりする。
- 発話のモデルを示す。
- 既習の言語材料を用いながら，教科書の内容を説明したり生徒とのやり取りを行ったりする。　など

（2）　英語使用の工夫（例）

- 話し方を明瞭にする。
- 慣れている表現は自然なスピードで話し，言語活動の説明やモデルの提示などの際は，ゆっくりとしたスピードで話す。
- 生徒の理解の程度を確認するために，生徒の目を見ながら話す。　など

本多敏幸「中学校　新学習指導要領　英語の授業づくり」を基に作成

授業実践事例については，YouTube　文部科学省公式チャンネル　mextchannel「中学校の外国語教育はこう変わる！」を御参照ください。